

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 9

令和3年11月30日発行

校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子
徳 心豊かで思いやりのある子
体 進んでやりぬくたくましい子

人間性の時代 対話力

太田 等

先週金曜日に参観日を開催いたしました。今回は、本校が長年取り組んできた全校児童による「江差餅つきばやし」を見ていただきました。

子どもたちは、この日に向け、パートや学年に分かれて何度も練習を繰り返すなど一生懸命に準備を重ねてきました。

その甲斐あって、本番ではどの子どもも威勢よく声かけをするなど、上手に披露していました。ご来校いただいた保護者の皆様には子ども達の生き生きとした姿にさぞ、元気をもらったのではないかと思います。



今月中旬、5.6年生教室前の廊下を通りかかると、国語の学習をしておりました。黒板を見ると「なぜ、いじめには誹謗中傷があるのか」という文が目には映りました。（他にもいくつか書かれています）

これらの文は、「説得力のある文章を書こう」という構成の中の「自分の考えを発信しよう」というテーマで、「あなたが日頃感じたり、考えたりしていることをもとに意見文を書く」という学習活動として、子どもから出された題名とのことでした。

「なぜ、いじめには誹謗中傷があるのか」という児童の考えた疑問は、大切なことです。人間性に関する問題です。こうした疑問を是非、持ち続けてほしいと思います。この題名を別な角度で表すと「誹謗中傷という『攻撃』が『いじめ』」となります。

— 人を攻撃する — これは、いかなる理由があっても、してはならないことであり、絶対に無くしていかなければなりません。暴力であり、悪だからです。

暴力には人間性はなく、人間性があれば、いじめという人間として卑劣（=品性がなく下劣であること、考え方や言動などが卑しい様を表す言葉）な行為は絶対にありません。

人間性は、相手と話し合いを通じ、よりよい生き方を探っていくことにつながります。

人間性が大切なことは、「考える力」です。考える力は 想像力（=創造力）とも言えます。考える力、想像力があれば、いかなる事があっても、感情で判断することなく、その本質を見極め、その先を想定し、最終的には価値ある方向へ善処することができます。

本校では、児童にとって「主体的、『対話的』で 深い学び」のある授業ができることを重点に日々、個に応じた授業改善に取り組んでいます。

『対話的』というのは、学習課題を話し合いによって整理し、明らかにしていくことです。また、授業中の対話の時間は、その場限り（学習のため）の「対話」ではありません。日常生活の中で生きて働かせるための「対話力」をつけるための学習です。言語力とも言います。

対話は、相手が何を言いたいのかを誤解のないようにしっかり捉えるという「聞く」ことから始まります。その上で、自分の考えを伝えます。これで対話は成立し、お互いにとって新たな発見と創造（深い学び）になります。

人は対話的に接し、それにより「新しいことを知ることができた！」という喜びと感謝の気持ちで、自分自身の人間性を深く広く育てて行く自己教育力を育てていきます。

今、時代はとてつもないスピードで進化しています。しかし、これから求められるのは価値を創造できる人間性です。ですから、子ども達が「なぜ、いじめには誹謗中傷があるのか」と人間性に関わる疑問をもったことに私は深く感動しています。

本校の教育目標「よく考え、表現する子」に相通じる活動を通して、子どもたちには対話する力（人間性）を高めていきたいと思っています。また、ご家庭でも是非、対話のキャッチボールをしていただければと思います。

明日から師走です。一年の中で最も慌ただしい月となりますが、子どもたちが、健康・無事故で過ごしていけるよう学校では最善を尽くして参りますので、今後ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。